

(タイトルぼしゅう中)

令和6年6月

ほっとルーム

新しい学年になり、2か月がたとうとしています。4月からほっとルームが新しい教室になりました。子どもたちも、教室での過ごし方がつかめてきたのではないかと思います。

「ほっとルーム会議」を開きました

ほっとルームは、いろいろな学年の子どもたちが集まる場所です。できることがちがったり、やりたいこと（やりたくないこと）がそれぞれあったりします。それでもみんなで『ほっとできる居場所』をつくっていくために、ほっとルームでの過ごし方について話し合いをしました。

『自分のことは 自分できめる』

まず、ほっとルームで大切にしていきたいめあてを子どもたちに伝えました。

先日の児童集会で、代表委員会と全校学級会について説明した時は、全校に『みんなのことをみんなできめていこう』と呼びかけました。自分一人のことも、学校全体のことも同じで、よく考えてきめる→きめたことをまわりの人たちに伝える→実行するという流れがとても大切だということです。この流れをひきだすために、開成小学校では、子どもたちに次のような問いかけをしています。

「何か困っていることがある？」「あなたは どうしたい？」「何かお手伝いすることはある？」

ご家庭でも、ぜひ、同じように声をかけていただければと思います。

次に、ほっとルームでのやくそくをたしかめました。保護者のみなさまにも知っておいていただきたいので、お伝えします。

- ①予定表に過ごし方を書く
- ②学校に出すものは、ほっとルームの箱の中に入れる
- ③くつや上ばきは、自分のくつばこに入れる

①について、週予定表は、前の週の金曜日、学級のお道具箱に2枚配られます。1枚は自分用、もう1枚はほっとルームの予定黒板にはる用です。ほっとルーム用は、自分だけでなく友達や先生たちにも、その日の過ごし方がわかるようにしておくためのものです。1日の中で「朝の会・帰りの会はクラスに行くこと」「給食は教室へ受け取りに行き、教室へ片付けに行くこと」を目標にしたいと思います。もちろん、「できそう」「やってみよう」は自分できめます。無理せず、相談しながら進めていきます。

③について、昨年度は職員玄関を使用していたこともありましたが、子どもたちに自分の学級を「ここが自分の場所」と思っていてほしいという考えから見直しをしました。

やくそくは「守らなくてはいけないもの」ではなく、「みんなが快適にすごせるようにするためのもの」です。必要があれば見直しをして、よりよく変えていきたいです。